

## マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802) の岩手県初記録

渡辺修二, 藤井忠志, 鈴木まほろ

The First Record of *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802)  
(Araneae: Theridiidae) in Iwate Prefecture, Japan.

Shuji WATANABE, Tadashi FUJII and Suzuki MAHORO

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

### Abstract

An alien species *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802) was collected in several places of Morioka city. This is the first record of the species from Iwate Prefecture, Japan. As this species is observed around the building even in winter, it may overwinter in Iwate Prefecture and have already established.

### はじめに

マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802) は雌成体の体長が 3.5~6.4mm, 雄成体が 3.5~4.7mm で, 屋内や建物周辺に不規則網を張るヒメグモ科のクモである (吉田 2008). 頭胸部は赤褐色, 腹部は卵形をしており, 腹部背面に黒色~赤褐色の太いジグザグの斑紋が二列並び, 中央に三角形の白色斑紋が縦に連なっている. 歩脚は黄褐色で, 薄い輪紋がある (写真 1-2).

本種は外国から, 飼料等と共に非意図的に持ち込まれた移入種 (外来種) であるとされており, これまで中央および南ヨーロッパ, 地中海沿岸, 南ロシア, 中国, 韓国, 北アメリカにおいて生息が報告されている (吉田 2003). 日本では 1982 年に愛知県で初めて記録された (八木沼 1982). 現在では 23 の都府県から報告されているが, 岩手県ではまだ報告がない (新海ほか 2016).

我々は本種を 2014 年から 2016 年にかけて, 盛岡市内 4 地点の屋内及び建物外部の開放廊下等で採集した. 今回はこれらの標本について報告する.

### 方法

採集した標本は, 約 70% のエタノールを入れたスクリュー管で保管した. 標本の同定は吉田 (2008) に

従った. 成体については, 雌は外雌器, 雄は触肢の構造を基に雌雄及び種を同定し (写真 3-4), 幼体については全体的な形状及び腹部背面の斑紋を基に種を同定した. 体長は頭胸部の前端から腹部末端までの長さを実体顕微鏡のマイクロメーターを用いて計測した.

### 結果

雌成体は 2 月~12 月に採集され, 体長は 3.8 mm~6.1 mm であった. 雄成体は 6 月~10 月に採集され, 体長は 2.5 mm~4.4 mm であった. 採集した標本は以下の標本リストのとおりである.

各標本について, 採集年月日, 採集地及び環境 (屋内・屋外), 雌雄及び成体幼体の別, 体長, 岩手県立博物館標本番号を記録した. なお, 建物外部の開放廊下で採集したものは (屋外) とした.

### 標本リスト

岩手県盛岡市加賀野 (屋内)

2014 年 10 月 15 日, 雄成体, 体長 3.0mm, IPMM212624  
2014 年 10 月 16 日, 雄成体, 体長 4.4mm, IPMM212625  
2014 年 10 月 27 日, 幼体, 体長 2.1mm, IPMM212626  
2015 年 4 月 30 日, 雌成体, 体長 3.8mm, IPMM212629  
2015 年 9 月 7 日, 雄成体, 体長 4.0mm, IPMM212632  
2016 年 6 月 2 日, 雌成体, 体長 4.0mm, IPMM212635

2016年7月14日, 雄成体, 体長3.0mm, IPMM212636  
2016年7月27日, 雄成体, 体長3.5mm, IPMM212637  
同(屋外)  
2014年11月24日, 雌成体, 体長5.5mm, IPMM212627  
2015年2月10日, 雌成体, 体長4.3mm, IPMM212628  
2016年5月21日, 雌成体, 体長4.8mm, IPMM212633  
2016年12月3日, 雌成体, 体長6.1mm, IPMM212639

岩手県盛岡市桜台(屋内)  
2015年6月25日, 雄成体, 体長2.5mm, IPMM212630  
2015年8月2日, 雄成体, 体長3.6mm, IPMM212631  
岩手県盛岡市西松園(屋内)  
2016年5月27日, 雌成体, 体長5.6mm, IPMM212634  
岩手県盛岡市上田(屋内)  
2016年9月1日, 雄成体, 体長4.2mm, IPMM212638

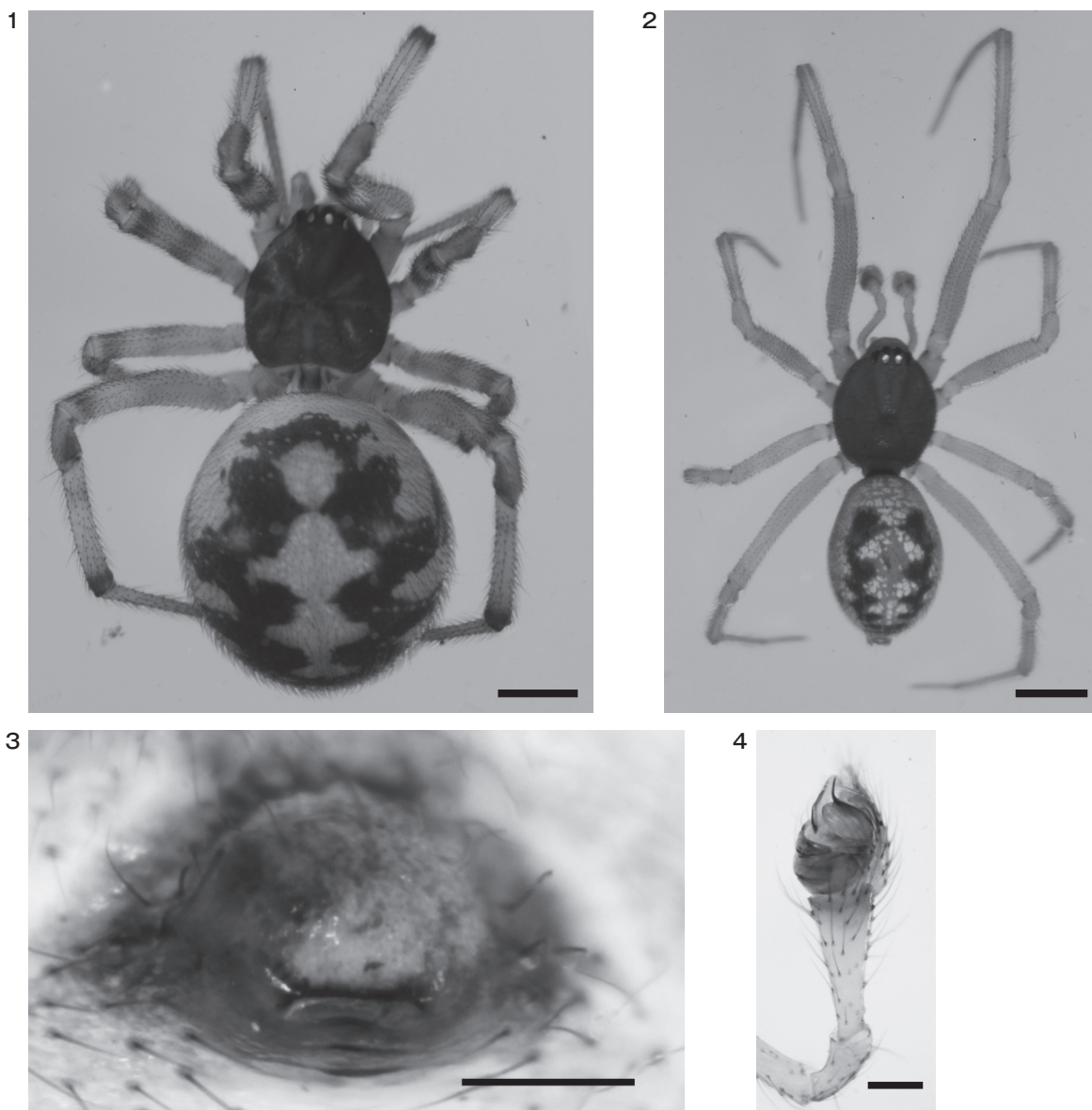


写真1-4. マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (WALCKENAER, 1802). IPMM212639(写真1, 3), IPMM212625(写真2, 4). 写真1: 雌背面, 写真2: 雄背面, 写真3: 外雌器, 写真4: 雄触肢. スケールは1.0mm(写真1, 2), 0.2mm(写真3, 4).

### 考察

本種が属するカガリグモ属 *Steatoda* は, 脊椎動物に作用する毒を持つことで知られるゴケグモ属 *Latrodectus* と近縁である(Levi 1962). 本属のクモは, 一般的に無害であると考えられているが, 本属のクモに咬まれたことでゴケグモ咬症と類似した症状

を起こした例が報告されている(Warrell et al. 1991, Graudins et al. 2002). 例えば, 世界的に分布し, 日本にも生息するシロホシヒメグモ *S. grossa* は, 症状は弱いものの, 筋肉の痛みや倦怠感等を引き起こす場合がある(Graudins et al. 2002). マダラヒメグモにより同様の症状を起こした例が, フランスにおいて1

件報告されている (Pommier et al. 2006). この報告において、実際にこの患者を咬んだと思われる個体はつぶれていたために同定できず、家の中にいた同種と見られる別個体を採集して同定したとある。このように、この患者を咬んだクモが確かに本種であるのか疑問があるものの、本種は同属のシロホシヒメグモと同様の毒成分を持つ可能性がある。しかし、本種は世界的に分布し、人家付近に数多く生息しているにもかかわらず、この例以外に治療を要する咬症の報告がないことから、本種による健康被害を警戒する必要はほとんどないと考えられる。

このように、本種による人的な被害を考慮する必要はないが、分布を拡大することで、生息地をめぐって在来種のクモと競合し、地域の生態系に影響を与えることが懸念される。

本種は2014年以降、筆者らによって毎年採集されているほか、2016年には本種を発見した盛岡市民から、県内における生息状況について問い合わせがあった。筆者らは本種の産卵を確認していないが、これらの状況から判断すると、盛岡市内で繁殖し定着している可能性が高い。また、本種の岩手県におけるこれまでの採集例は盛岡市に限られているが、物流とともに分布を広げてきたことを考えると、今後、県内の他の市町村でも本種の生息が確認されることが予想される。

本種はヨーロッパにおいて、住宅地だけではなく洞穴や山地等からも採集されている (Deltshev 2008, Deltshev et al. 2013)。屋外で越冬することができれば、県内でも山地等に分布を広げることができるであろう。

筆者のうち渡辺は2014年12月から2015年2月まで、本種が建物外部にある開放廊下の隅に生息している様子を観察した。この廊下は風や雨、雪に直接さらされないが、建物の外側にあるため、気温は外気の影響を強く受ける環境である。観察した期間中、ほとんどの日で盛岡市の最低気温は氷点下であり、最も寒い日は-10.3℃であった (気象庁)。2015年2月10日に、廊下に雪が吹き込んだため床に積雪が見られ、観察していた個体はその雪の上に落下し死亡していた。観察期間中にこの個体の動く様子は確認していないが、採集した標本に乾燥や腐敗等は見られなかったことから、落下する直前まで生存していたと考えられる。より狭い隙間など、風や雪が遮られる場所であれば越冬でき

たと推測される。

このように、本種はある程度風や雪が遮られる場所であれば、県内の屋外の環境で越冬できると考えられる。環境が合えば、山地等でも繁殖及び越冬し、定着する可能性がある。今後の分布拡大に注意が必要である。

## 引用文献

- Deltshev C (2008) Faunistic diversity and zoogeography of cave-dwelling spiders on the Balkan Peninsula. *Advances in Arachnology and Developmental Biology* 12:327-348.
- Deltshev C, Komnenov M, Blagoev G, Georgiev T, Lazarov S, Stojkoska E & Naumova M (2013) Faunistic diversity of spiders (Araneae) in Galichitsa mountain (FYR Macedonia). *Biodiversity Data Journal* 1:e977 doi:10.3897/BDJ.1.e977
- Graudins A, Gunja N, Broady KW, & Nicholson G M (2002). Clinical and in vitro evidence for the efficacy of Australian red-back spider (*Latrodectus hasselti*) antivenom in the treatment of Brown cupboard spider (*Steatoda grossa*) envenomation. *Toxicon* 40:767-775.
- 気象庁ホームページ <http://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>
- Levi HW (1962) The genera of the spider family Theridiidae. *Bulletin of the Museum of Comparative Zoology* 127:3-71
- Pommier P, Rollard C & Haro L (2006) Un cas de stéatodisme observé en Languedoc après morsure d'araignée du genre *Steatoda*. *La Presse Médicale* 35:1825-1827
- 新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 (2016) CD 日本のクモ ver. 2016.
- Warrell DA, Shaheen J, Hillyard PD & Jones D (1991) Neurotoxic envenoming by an immigrant spider (*Steatoda nobilis*) in southern England. *Toxicon*. 29 (10):1263-1265.
- 八木沼健夫 (1982) 分布資料. *Atypus* 80:10.
- 吉田哉 (2003) 日本産ヒメグモ科総説, p43. 日本蜘蛛学会, 茨木市.
- 吉田哉 (2008) ヒメグモ科. 小野展嗣 (編著) 日本産クモ類, p363. 東海大学出版会, 秦野市.

## 要 旨

2014年から2016年にかけて、盛岡市の複数地点で移入種のマダラヒメグモを採集した。これは岩手県初記録である。本種は冬季でも建物周辺で観察されていることから、県内で越冬し、既に定着している可能性がある。

**キーワード**：マダラヒメグモ，移入種，越冬